

○ 本校の概要

(学校規模)児童数517名、17学級、教員数23名。
 (本年度の校内研究)平成29年度まで指定を受けた次世代型教育推進センター実践フィールド校の研究結果の検証。教員の研修システムの検証。
 (学校マネジメント強化事業指定校)副校長の業務負担減、教員の働き方改革に係る学校改善の在り方の検討。
 (特色ある教育活動)夏季にサマーワークショップを55学級68講座実施。月1回の縦割り班活動。月1回の学級あそび(エンジョイタイム)による体力向上、運動経験の増加。「総合的な学習の時間」や「理科」等で矢口自然農園を活用した体験的な活動の実施。学習成果発表会である矢口文化フェスタでの発表を通して、表現力の育成を図ると共に、創造的な教育活動の実施。学校地域支援本部との連携を図り、学校支援ボランティアの活用。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:保護者アンケートの結果「担任、専科の先生は分かり易く楽しい授業の工夫をしている」と回答している保護者の割合が80%以上。 3:保護者アンケートの結果「担任、専科の先生は分かり易く楽しい授業の工夫をしている」と回答している保護者の割合が70%以上。	4	○「児童の伝え合う力を高める授業の工夫」をテーマに授業研究を行った。様々な教科で伝え合う力の育成をめざして、協議を積み重ねた。外国語でのコミュニケーション能力の前提である、母語である日本語のコミュニケーション能力の向上をめざす。	A 7 B 1 C 1 D 1	・外国語教育は年々重視されてきており、小学校でも低学年から力を入れた授業がおこなわれ、子どもたちも楽しく意欲的に学んでいるように見受けられました。 ・学校は学問を学ぶと共に、人としての礎と豊かな人間関係を築く事を身に付ける所だと思います。いろいろな沢山の経験が出来ると思います。 ・体験活動も子どもたちにとって良い経験になったと思う。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	2:保護者アンケートの結果「担任、専科の先生は分かり易く楽しい授業の工夫をしている」と回答している保護者の割合が60%以上。	4	○外国語教育指導員を効果的に活用し、コミュニケーション能力の育成を図ってきた。来年度は英語の校内掲示をもう少し充実させていきたい。東京オリンピックを活用し、異文化理解、国際理解を促進する。		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケートの結果「担任、専科の先生は分かり易く楽しい授業の工夫をしている」と回答している保護者の割合が60%未満。 4:児童アンケートの結果、「学校での勉強や生活は、自分にとって楽しかったり、嬉しかったりする気持ちで過ごすことができた」と回答している児童の割合が80%以上。	4	○ICT支援員や担当教員による、ICT機器活用研修を実施した。児童の学ぶ意欲を引き出す授業と基礎学力の定着をめざして、ICT支援員と協力しながら、全教員がICT機器を活用した授業を年間を通して実践した。		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:児童アンケートの結果、「学校での勉強や生活は、自分にとって楽しかったり、嬉しかったりする気持ちで過ごすことができた」と回答している児童の割合が70%以上。	4	2:児童アンケートの結果、「学校での勉強や生活は、自分にとって楽しかったり、嬉しかったりする気持ちで過ごすことができた」と回答している児童の割合が60%以上。		
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	「家庭での学習習慣が定着している」と回答している保護者の割合が80%以上。	4	○児童の学力の向上を目指して、夏期休業中における三者面談(希望者)を実施し、児童一人一人の成果と課題の共通理解と、今後の学習の進め方について指導を行った。面談にできなかった児童とは、夏休み前の授業で一人一人と面談し、児童理解に努めた。	A 7 B 1 C 1 D 1	・家庭での学習習慣には家庭差があるであろうから、質の高い授業に結び付けるには、先生方の努力と工夫は大変だと思います。 ・他の全国共通試験の成績の良い県は、家庭での学習が充分できているようです。宿題を沢山出すということだけでなく、何か課題を見つけ、家で机の前に座る習慣が欲しいと思います。 ・先生たちは児童の為にすごく頑張っていると思います。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:保護者アンケートの結果「家庭での学習習慣が定着している」と回答している保護者の割合が70%以上。	4	○教員自らが実践している内容で授業改善推進プランを作成し、PDCAサイクルで定期的に検証することで、日々の授業改善に役だつものにしていく。		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	2:保護者アンケートの結果「家庭での学習習慣が定着している」と回答している保護者の割合が60%以上。	4	○家庭学習における自主学習は、伝統として定着してきた。ただし、自主学習の質にはばらつきがあるので、より質の高い自主学習になるように、普段の授業でも課題意識を持たせ、より興味関心を引き出す授業実践をめざす。		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	2	1:保護者アンケートの結果「家庭での学習習慣が定着している」の達成が60%未満。	4			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4:児童アンケートの結果、「自分からすすんであいさつをした」と考えている児童が80%以上。	4	○学期に1回、安方中と矢口東小との3校で授業を見合い、教科ごとの分科会に分かれ小中系統立って指導法を模索し、共通理解と実践を行った。3校で同じ期間に、あいさつ週間を実施した。来年度から、生活指導の分科会では、授業規律、号令、挨拶など、3校で統一できることを増やす。	A 7 B 1 C 1 D 1	・中学校と小学校での系統立てた指導法が模索されているとのこと。よろしくお願ひします。 ・感心する程挨拶が出来る子と、口を忘れてきたかと思うほど言葉が出ない子がいりますが、そんな子でもこちらから話せば必ず目を見て返事をします。大人の対応次第だと思います。ほほみんな、のびのび明るい子たちです。 ・不登校やいじめの話はあまり聞きません。学校の努力のおかげだと思います。「O」だといひですね。 ・ケース会議等、手伝えることがあれば主任教諭児童委員や民生委員も参加できます。学校に行くこと、いろいろな子どもたちから挨拶してもらってうれしいです。 ・不登校、ひきこもりはこの学校でも問題になっています。どうか親身に対応してください。
		道徳教育推進教師を講師として研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:児童アンケートの結果、「自分からすすんであいさつをした」と考えている児童が70%以上。	4	○学期に1回、道徳に関する研修を行った。児童の徳を育むには、まずは教員が率先垂範し背中で見せることであるという共通認識をもとに、教員一人一人が日々自分を磨き、児童の道徳の実践力を高める。		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:児童アンケートの結果、「自分からすすんであいさつをした」と考えている児童が60%以上。	4	○問題行動、不登校等に関する会議を必要に応じて実施したが、即時性のある課題で実施することが多いため、今後も継続的に学校組織をあげて対応していく。保護者との協力を密にし、外部の専門機関とも連携し、根拠強く対応する。		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:児童アンケートの結果、「自分からすすんであいさつをした」と考えている児童が60%未満。	4	○年間を通して、計画委員が正門や校内に立ち、あいさつ運動を行った。より子ども達のあいさつを引き出すために、教師が日々率先垂範する。		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:児童アンケートの結果、「体力向上(ながなわや中休みのマラソン、クラス遊びなど)にすすんで自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合が80%以上。	4	○家庭科専科で既に作成してある食育指導計画の活用を全校で徹底する。その上で栄養士とも連携して、食育の指導を実施する。給食委員会を活用し、全校朝会で食育を推進する発表をする。調理員さんが給食を苦労して作っている映像を見せる。	A 6 B 2 C 1 D 1	・長縄跳びは体力面だけでなく、目標に向かって皆で力を合わせて頑張り、達成した喜びを分かち合うことにも繋がります。素晴らしい事だと思います。 ・基礎体力向上の為に外でも体を動かし、気分を発散させ、切り替えをする事を願ひます。 ・今の日本の児童は体力・運動能力が劣っていると言われていて、そのレベルを返上するように願ひします。 ・過少評価では?と思うところがあるので、Bとしました。中々80%以上を出すのは難しいところだと思います。取組は素晴らしいものだと思います。今後も続けていってほしいものです。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:児童アンケートの結果、「体力向上(ながなわや中休みのマラソン、クラス遊びなど)にすすんで自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合が70%以上。	4			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	1:児童アンケートの結果、「体力向上(ながなわや中休みのマラソン、クラス遊びなど)にすすんで自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合が60%以上。	4			
		クラス遊びや長縄、マラソンタイムに積極的に進んで参加させる。	4:全学級で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	1:児童アンケートの結果、「体力向上(ながなわや中休みのマラソン、クラス遊びなど)にすすんで自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合が60%未満。	4			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:学校公開後や2学期末の保護者アンケートの結果、「分かり易く楽しい授業の工夫をしている」と答えた保護者が80%以上。	4	○児童の確かな学びを導く授業改善をねらった教科横断的な校内研究となるよう、教師が児童役となり事前授業を行う校内研究等を実施した(年10回)。今後、児童一人一人の考えを発信する授業の創造ができる校内研究のさらなる充実を図っていく。	A 8 B 1 C 1 D 1	・先生方のご努力には頭が下がります。校内研究は大変と思いますが、引き続きお願いいたします。 ・学校公開を見に行く度に、児童たちが授業に取り組み姿が楽しそうに見えます。それも先生方の授業の工夫の成果だと思います。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	2:学校公開後や2学期末の保護者アンケートの結果、「分かり易く楽しい授業の工夫をしている」と答えた保護者が70%以上。	4			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	○木曜日の連絡会における、ミニ研修会での実践事例の紹介や指導に役立つ情報の交換を行った。	4			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1:学校公開後や2学期末の保護者アンケートの結果、「分かり易く楽しい授業の工夫をしている」と答えた保護者が60%未満。	4	○授業公開後の保護者アンケートの回収率を向上させるための働きかけを行う。		
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	児童アンケート「サマーワークショップに楽しく参加できた」と答えた児童が	4	○ホームページにて、児童の日常の活動の発信を行った。4~12月にホームページを142回更新し、開かれた学校作りを行った。	A 7 B 1 C 1 D 1	・地域としても、更に来出来るサポートを充実していきたいと思ひます。 ・サマーワークショップの折の参加児童のマナーの向上とありますが、ワークショップへの参加だけでなくマナーも大切と思ひます。これからもよろしくお願ひいたします。 ・参加している児童やご家族の方は、各ボランティアや学校支援地域本部の方々と、多くの協力があるから貴重な体験が出来ているという事を感じながら、参加できるようになれたら良いと思ひます。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○55のワークショップが開催され、サマーワークショップの充実が図られた。今後、サマーワークショップにおける参加児童のマナーの向上を呼び掛ける。		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	保護者アンケート「学校・保護者・地域・学校支援地域本部が連携して、地域の行事やボランティア活動に取り組んでいる」の達成が	4	○図書ボランティアによる読み聞かせ、グリーンボランティアによる農園での栽培活動等、学校支援地域本部との連携を図った教育活動を実施した。特に今年度は農園の田んぼの収穫量は33kgと、例年以上に豊作であった。		
		学校、保護者、地域、及び各種団体が協力して、夏季休業中にサマーワークショップを実施する。	4:学校、保護者、地域が連携して実施した。 3:学校のみで実施した。 2:地域のみで実施した。 1:実施ができなかった。	4	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○令和3年度の開校130周年に向けて、更なる地域連携を深めていく。		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す